

もしものことに備えて

## 7 風水害発生後の対応は知っていますか？

- 1 安全の確保  
子どもやお年寄り、体の不自由な人がいる場合は、早期の避難を心掛ける。
- 2 相互協力  
避難する時はできるだけ複数で行動する。また、救助隊の指示に従い、すみやかに避難する。
- 3 服装  
履物は運動靴など、紐で締められるものなど動きやすいものにする。
- 4 歩いて避難できる深さ  
歩ける水深はひざくらいまでが目安である。逃げ遅れた場合は、無理をせず高いところで救助を待つ。
- 5 冠水した場所の歩行  
長い棒で水面下を確認しながら歩く、ロープにつながって避難するなどの安全対策をとる。
- 6 危険の回避  
土砂災害の恐れがあるがけ地の近く、増水している川の橋は通行しないようにする。

集中豪雨では、短時間で河川などが危険な水位になることがある。また、離れた場所の雨でも上流から流れてきて、河川が危険な水位になることもある。さらに土地が低い場所では水がたまりやすいため、車を使用する場合は車中に閉じ込められる危険性もある。

土砂災害の可能性もある。がけ崩れ、地すべり、土石流に気をつける。徴候としては、水が濁ったり、土のにおいがしたり、がけや山から音がするには注意する。土石流の場合は、川の水位が急に下がったりすることもある。

風水害が発生した後の二次災害（河川の氾濫、土砂災害など）に注意すること。